

岡山県感染症週報

2011 年 第 48 週 (11 月 28 日 ~ 12 月 4 日)

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』が解除になりました。(12月8日)

◆2011 年 第 48 週 (11/28 ~ 12/4) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 45 週 2 類感染症 結核 5 名 (20 代 女 1 名、30 代 女 1 名、80 代 男 1 名・女 2 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 女)
- 第 46 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 2 名 (60 代 女 1 名、90 代 男 1 名)
- 第 47 週 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (60 代 男) の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

- インフルエンザは、全県で 158 名 (定点あたり 1.88 人) の報告があり、流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を越えました。
- マイコプラズマ肺炎は、患者数が増加し、再び今年最多になりました。
- 感染性胃腸炎は、県全域で患者が増加し、岡山市・総社市では学校の臨時休業が報告されました。岡山県では『食中毒 (ノロウイルス) 注意報』を発令し (12 月 8 日)、食中毒予防を呼びかけています。
- 流行性耳下腺炎は、全県の患者数は増加しましたが、今まで多かった備中地域では減少し、感染症発生レベル 1 になりました。
- RS ウイルス感染症は、患者数は減少しましたが、過去最も多い状態がつづいています。

【速報】○第 49 週 インフルエンザとみられる臨時休業がありました。

- ・休校 1 校 (12/6 浅口市)
- ・学級閉鎖 9 校 (12/5 和気町 2 校・12/6 浅口市 1 校、倉敷市 4 校・12/7 倉敷市 2 校)
- 第 49 週 感染性胃腸炎による臨時休業がありました。
- ・学年閉鎖 1 校 (12/8 勝央町)・学級閉鎖 2 校 (12/8 岡山市 1 校、倉敷市 1 校)

1. **インフルエンザ**は、全県で 158 名 (定点あたり 1.88 人) の報告があり、流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を越えました。倉敷市、備中地域で患者が増加しました。県内の発生状況・臨時休業情報などは [『インフルエンザ情報』](#) をご覧下さい。
 全国集計第 47 週速報値 (11/21~27) によると、全国では定点あたり 0.29 人、第 42 週以降増加がつづいています。今シーズン (2011/9/5 ~) 第 48 週現在、全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型の割合が最も多く 81%、B 型が 17%、AH1 pdm09 型が 2% の順になっています。
[\(国立感染症情報センター インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/2012 シーズン\)](#)
2. **マイコプラズマ肺炎**は、患者数が増加し (基幹定点 5 医療機関あたり 1.00 → 3.20 人)、再び今年最多になりました。岡山市 (7 人)、倉敷市 (7 人)、備北地域 (2 人) で患者報告がありました。今年是全国的に過去 5 年と比較してかなり多いと報告されています。[\(国立感染症情報センター第 46 週マイコプラズマ肺炎グラフ\)](#)
3. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、県全域で増加しました (定点あたり 6.37 → 8.74 人)。岡山市・総社市では学校の臨時休業が報告されています。岡山県では 12 月 8 日『食中毒 (ノロウイルス) 注意報』を発令し、食中毒予防を呼びかけています。
 今週から『[感染性胃腸炎情報](#)』を週報に掲載いたします。詳しくはそちらをご覧ください。
4. **流行性耳下腺炎**の定点あたり患者数は、わずかに増加しました (定点あたり 1.07 → 1.17 人)。備中地域でつづいていた感染症発生レベル 2 はレベル 1 になりました (3.43 → 2.14 人)。
5. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、減少しましたが (定点あたり 0.85 → 0.70 人)、過去最も多い状態がつづいています。乳幼児では重症化することもありますので注意が必要です。
6. **腸管出血性大腸菌感染症**は、今年はいまだに 65 名の発生がありました。岡山県は 6 月 23 日に発令した『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を 12 月 8 日に解除しました。注意報は解除になりましたが冬でも患者発生がみられますので、ひきつづき感染予防に心がけてください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

前週からの推移：
 2倍以上の減少 1.1～2倍未満の減少 1.1未満の増減
 1.1～2倍未満の増加 2倍以上の増加

流行状況：空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

今週の注目感染症

感染性胃腸炎

【感染性胃腸炎とは】

感染性胃腸炎は、嘔吐・下痢をおもな症状とする感染症で、ウイルスや細菌などさまざまな病原体によって起こります。患者は冬から春にかけて増加し、ノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものが多くなります。この時期の集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものといわれています。また、春にかけて増加するロタウイルスは、乳幼児嘔吐下痢症の重要な原因ウイルスです。

今週は冬の集団発生事例のおもな原因であるノロウイルスについて説明します。

【ノロウイルス感染症 症状】

ノロウイルス感染することにより起こります。潜伏期間は数時間～数日（平均1～2日）で、主な症状は吐き気・嘔吐および下痢です。嘔吐や下痢は1日数回から多いときは10回以上のこともあります。症状は数時間～数日（平均1～2日）と比較的短く、一般的には重症化することは多くありません。ただし、高齢者や乳児では嘔吐や下痢により脱水症になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

【感染経路と予防】

ノロウイルスの感染はほとんどが経口感染で、次のような経路があります。

- ウイルスに感染した人が取り扱うことにより汚染された食品を、生あるいは十分に加熱しないで食べた場合。
- 患者との濃厚接触のより感染する「ヒト→ヒト感染」。
- 吐物などにより床に残ったウイルスがほこりと一緒に舞い上がり、それを吸引することによっておこる「塵埃感染」。

感染力は非常に強く、わずかなウイルスの量でも感染し、保育園や幼稚園、学校、福祉施設、病院などでは集団発生が起こることがあります。

最も重要な予防法は手洗いです。帰宅後・食事前また調理や配膳の前にも流水・石けんでしっかり手洗いをしましょう。また、加熱が必要な食品は、十分に加熱してから食べてください。

嘔吐物や下痢便には大量のウイルスが含まれており、処理する場合はマスク・手袋を着用し、吐物・下痢便をしっかりと拭き取った後、塩素系消毒剤（次亜塩素酸ナトリウムを含む家庭用漂白剤の場合は約200倍程度に薄めて）で汚染箇所を広めに消毒します。アルコールは消毒効果が低いとされています。

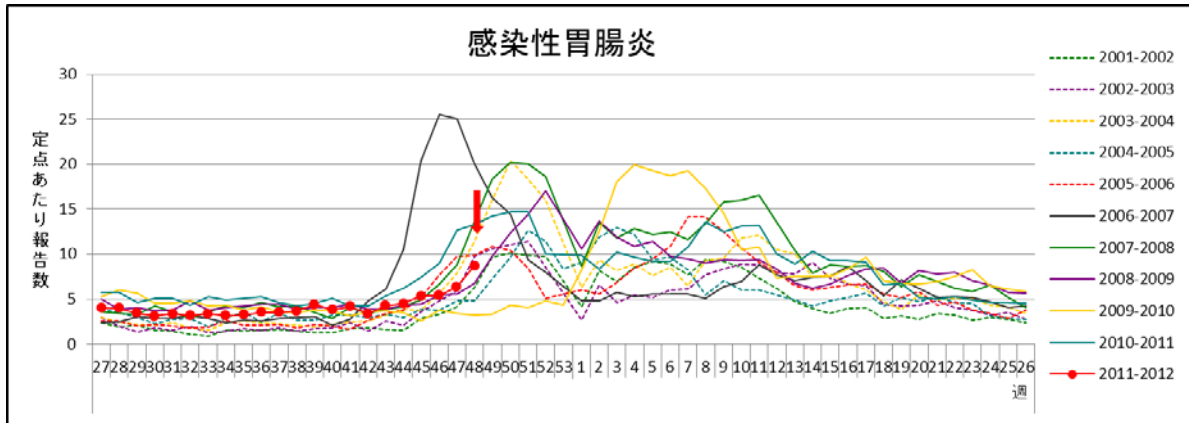
下痢の症状がなくなった後でも、患者の便にはしばらくの間ウイルスの排泄がつづきますので、汚物を処理する際には注意が必要です。

- ・ [ノロウイルスに関するQ&Aについて（厚生労働省）](#)
- ・ [食中毒（ノロウイルス）注意報を発令しました（岡山県生活衛生課）](#)

感染性胃腸炎情報 第 48 週 2011 年 11 月 28 日 ~ 12 月 4 日

- 岡山県内の患者報告数は 472 名、定点あたり 8.74 人（定点医療機関 54 定点）に増えました。
- 県内すべての地域で患者が増加しました。
- 感染性胃腸炎による学級閉鎖が岡山市で 2 校・総社市で 1 校ありました。
- 岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令し（12 月 8 日）、食中毒予防を呼びかけています。

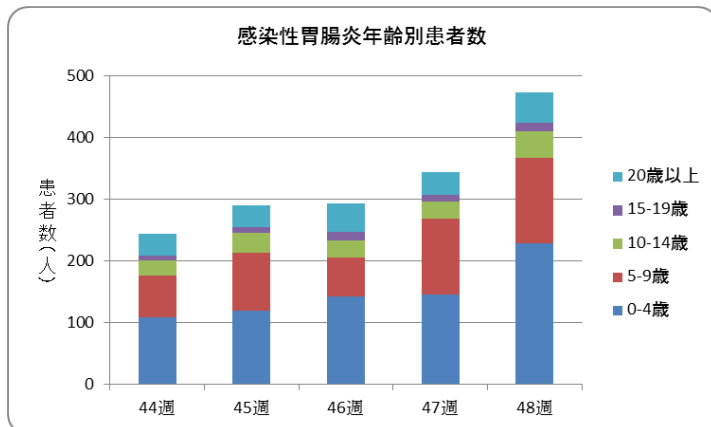
【速報】感染性胃腸炎による臨時休業が、岡山市・倉敷市・勝央町で各 1 校ありました。



※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、県内すべての地域で増加しました（定点あたり 6.37 → 8.74 人）。美作地域（12.67 人）、倉敷市（9.91 人）、備前地域（8.80 人）、岡山市（8.14 人）で多く報告されています。感染性胃腸炎による学級閉鎖が岡山市で 2 校、総社市で 1 校ありました。

岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令し（12 月 8 日）、食中毒予防を呼びかけています。



患者の年齢分布は 0-4 歳が最も多く、約半数を占めています。お子さんの体調の変化に注意して、早めに医療機関を受診してください。また、通常重症化することはありませんが、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので注意が必要です。

岡山県地区別 感染症マップ 感染性胃腸炎 2011 年 48 週



48 週 11/28~12/4 47 週 11/21~11/27 46 週 11/14~11/20 45 週 11/7~11/13



レベル 3		レベル 2		レベル 1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値	基準値
20	12			0 < 20 未満	0

レベル 3 の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル 3 が継続されます。

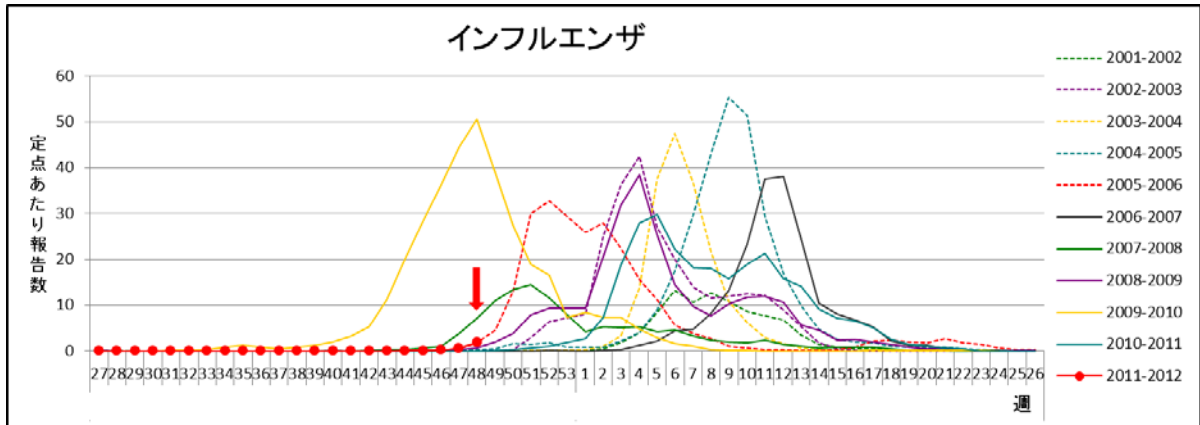
インフルエンザ情報 第 48 週 2011 年 11 月 28 日 ~ 12 月 4 日

➤ 岡山県の流行状況

- 岡山県内の患者報告数は 158 名、定点あたり 1.88 人に増え、流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を越えました。
- 患者のほとんどは倉敷市・備中地域からの報告です。
- インフルエンザとみられる学年閉鎖が 1 校、学級閉鎖が 2 校ありました。
- このうちの一事例から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。

【速報】第 49 週 インフルエンザとみられる臨時休業がありました。

- ・休校 1 校 (12/6 浅口市)
- ・学級閉鎖 9 校 (12/5 和気町 2 校・12/6 浅口市 1 校、倉敷市 4 校・12/7 倉敷市 2 校)

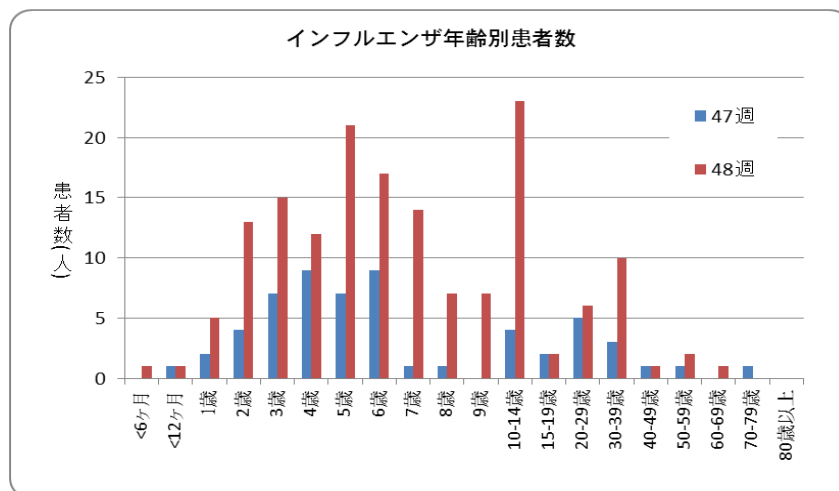


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザ患者数は、倉敷市 86 名、備中地域 62 名、備前地域 9 名、岡山市 1 名の報告があり (84 定点医療機関定点あたり 1.88 人)、流行開始の指標である 1.00 人を越えました。患者は、倉敷市 (定点あたり 1.50 → 5.38 人)、備中地域 (2.42 → 5.17 人) で増加し、患者の 94% が両地域からの報告です。また、この地域から学校の臨時休業も報告されています。

年齢別患者発生状況 第 48 週 (11/28~12/4)

患者は、臨時休業が報告された幼稚園や小学校に該当する年齢層で、急激に増加しました。乳児や 70 歳以上の高齢者は、報告はあるもののまだ少ない状態です。

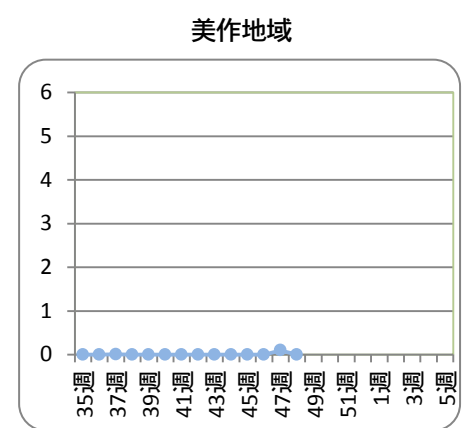
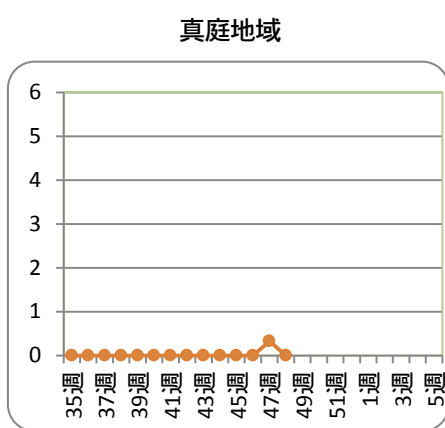
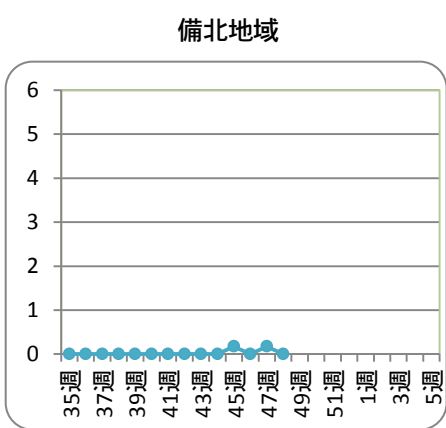
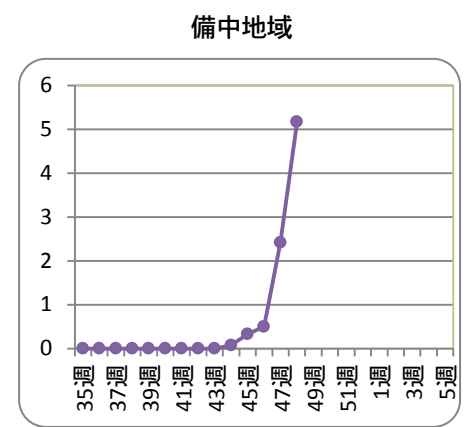
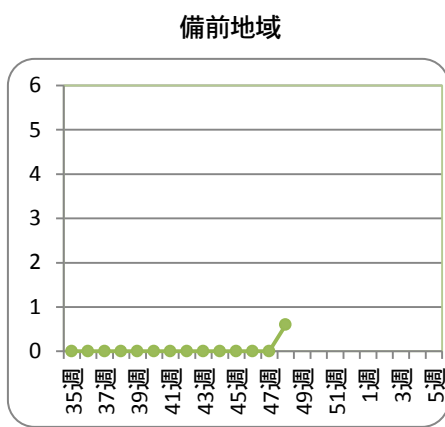
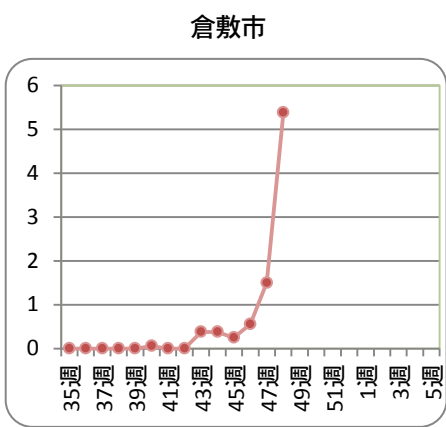
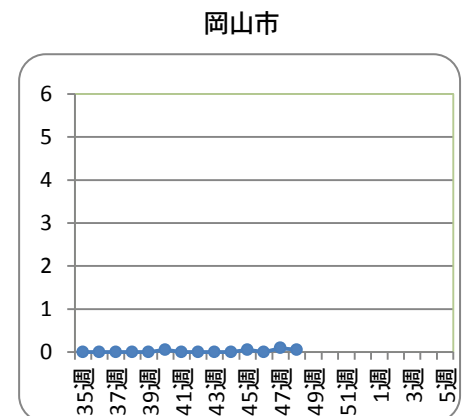
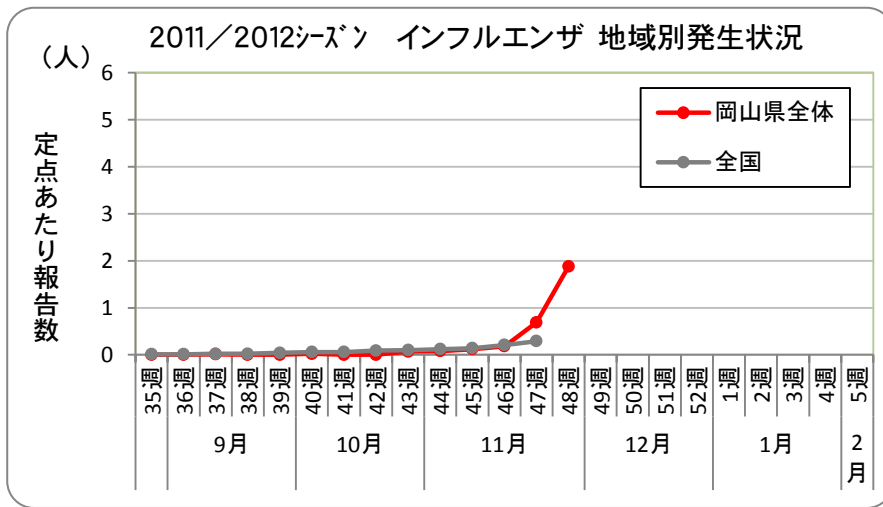


1. 地域別発生状況

第48週（11/28～12/4） 前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	158	↑	備 中	患者数	62	↑
	定点あたり	1.88			定点あたり	5.17	
岡山市	患者数	1	↓	備 北	患者数	-	↓
	定点あたり	0.05			定点あたり	-	
倉敷市	患者数	86	↑	真 庭	患者数	-	↓
	定点あたり	5.38			定点あたり	-	
備 前	患者数	9	↑	美 作	患者数	-	↓
	定点あたり	0.60			定点あたり	-	

【記号の説明】 前週からの推移：
↓ 2倍以上の減少 ↘ 1.1～2倍未満の減少 → 1.1未満の増減
↗ 1.1～2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加

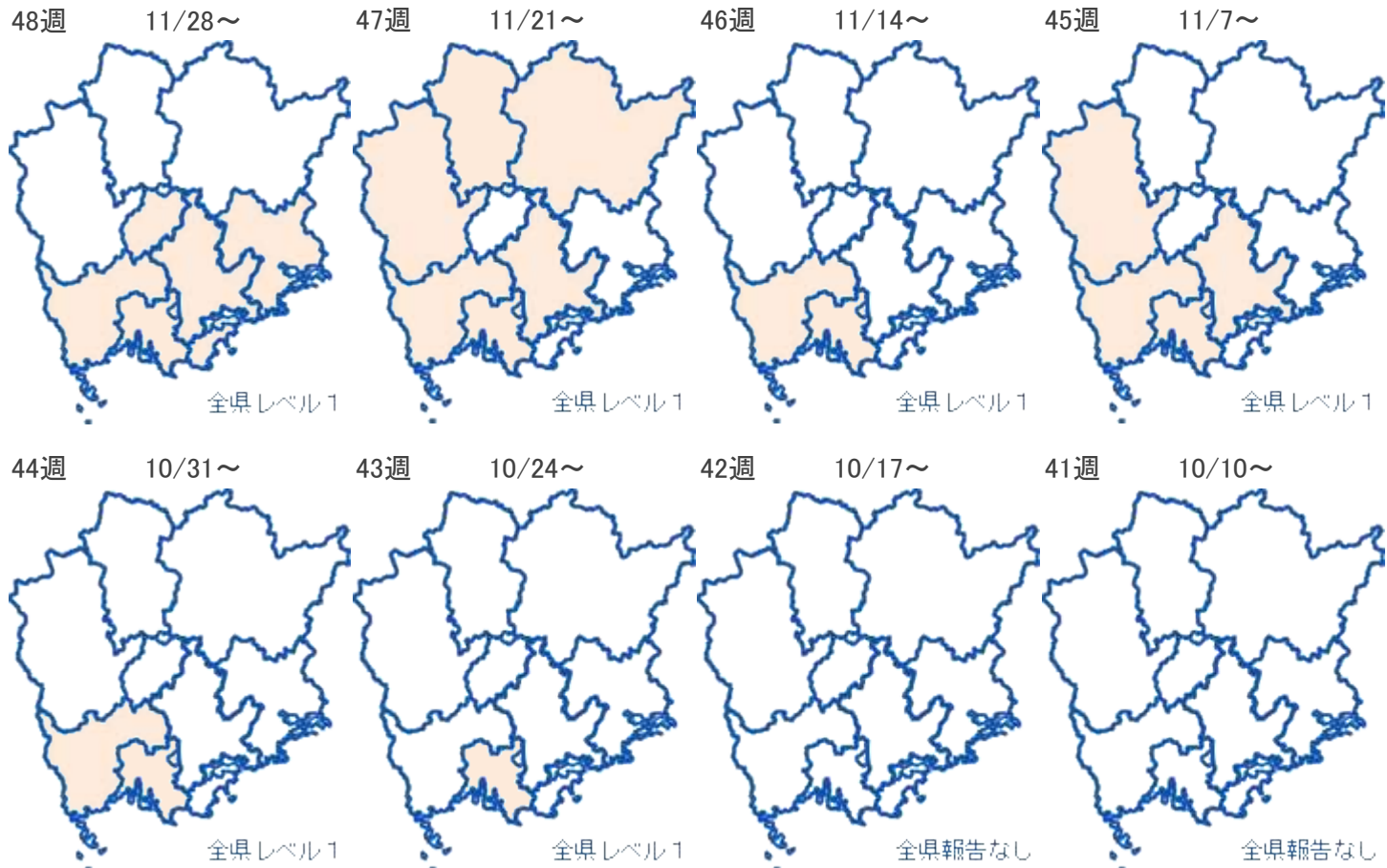




岡山県地区別 インフルエンザ感染症マップ 2011年 48週

2011年12月7日

11:36:51



インフルエンザ

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

保健所別報告患者数 2011年 48週 (2011/11/28~2011/12/04)

2012年1月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	158	1.88	1	0.05	86	5.38	9	0.60	62	5.17	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	38	0.70	12	0.86	17	1.55	2	0.20	6	0.86	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	6	0.11	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	9	0.64	13	1.18	-	-	7	1.00	2	0.50	5	2.50	2	0.33
感染性胃腸炎	472	8.74	114	8.14	109	9.91	88	8.80	52	7.43	21	5.25	12	6.00	76	12.67
水痘	59	1.09	28	2.00	7	0.64	4	0.40	11	1.57	1	0.25	2	1.00	6	1.00
手足口病	78	1.44	18	1.29	30	2.73	15	1.50	2	0.29	-	-	1	0.50	12	2.00
伝染性紅斑	9	0.17	2	0.14	3	0.27	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
突発性発疹	30	0.56	19	1.36	3	0.27	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	5	0.83
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	63	1.17	25	1.79	11	1.00	10	1.00	15	2.14	2	0.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	18	3.60	7	7.00	9	9.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	4	0.80	-	-	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 48週 (2011/11/28~2011/12/04)

2012年1月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	158	1.88	1	0.05	86	5.38	9	0.60	62	5.17	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	0.11	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	0.70	9	0.64	13	1.18	-	-	7	1.00	2	0.50	5	2.50	2	0.33
感染性胃腸炎	472	8.74	114	8.14	109	9.91	88	8.80	52	7.43	21	5.25	12	6.00	76	12.67
水痘	59	1.09	28	2.00	7	0.64	4	0.40	11	1.57	1	0.25	2	1.00	6	1.00
手足口病	78	1.44	18	1.29	30	2.73	15	1.50	2	0.29	-	-	1	0.50	12	2.00
伝染性紅斑	9	0.17	2	0.14	3	0.27	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	63	1.17	25	1.79	11	1.00	10	1.00	15	2.14	2	0.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第48週 2011/11/28~2011/12/04)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	158	1	1	5	13	15	12	21	17	14	7	7	23	2	6	10	1	2	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	38	14	12	8	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	-	-	2	4	4	1	6	7	2	1	2	9	-	-
感染性胃腸炎	472	6	18	61	43	57	43	40	28	32	22	17	42	15	48
水痘	59	1	1	19	7	8	10	4	3	1	-	2	3	-	-
手足口病	78	-	3	22	21	17	7	2	2	1	1	-	2	-	-
伝染性紅斑	9	-	-	1	-	-	2	2	2	1	-	-	1	-	-
突発性発疹	30	2	13	13	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	63	-	-	5	3	5	9	11	9	7	3	3	8	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	18	1	6	6	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	2

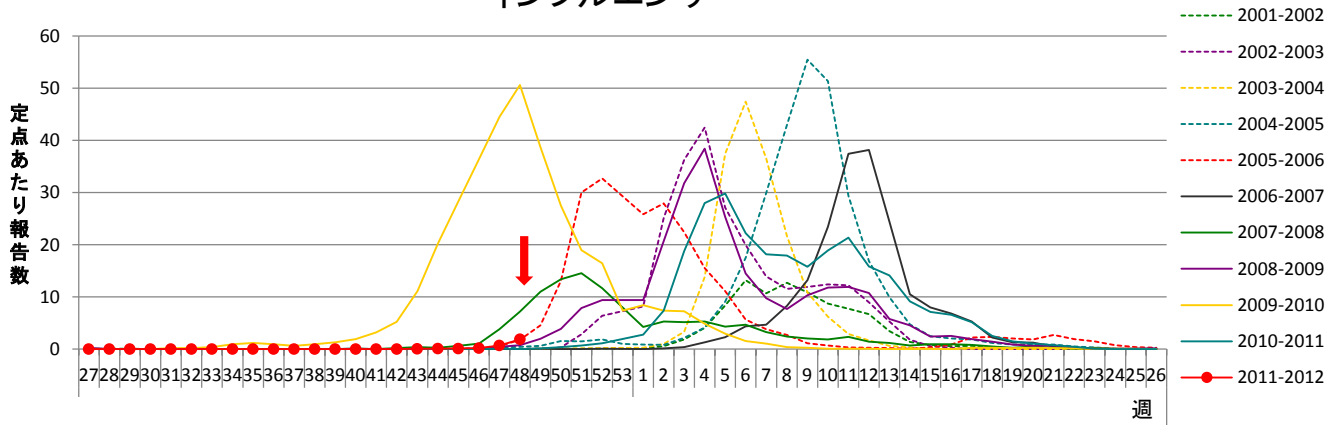
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

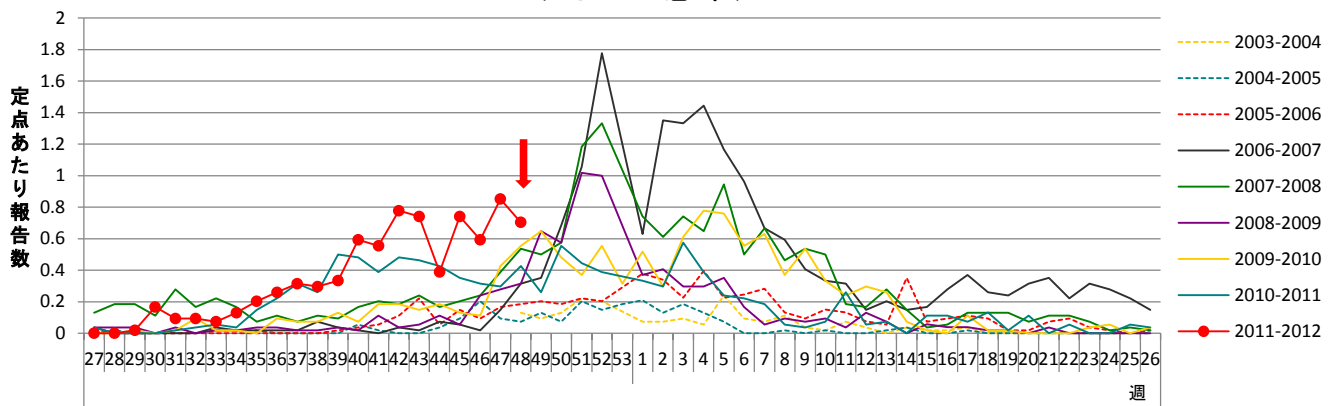
2011年 48週

分類	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	472	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	64	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	3	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	32	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3	-	8	7	急性脳炎*4	-	3	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	14	21	ジアルジア症	-	2	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	9	9	破傷風	-	2	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	1	2
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	-	-

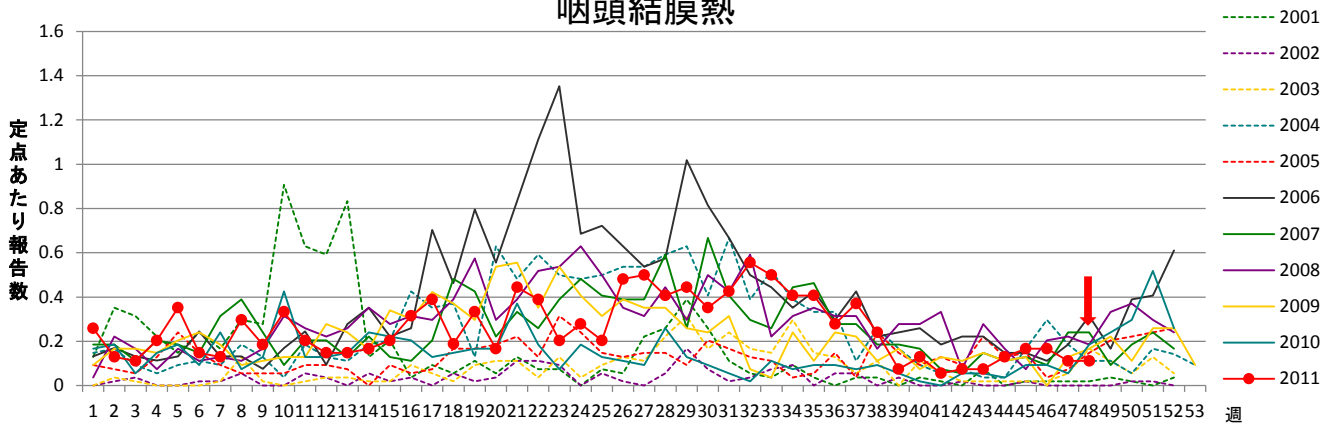
インフルエンザ



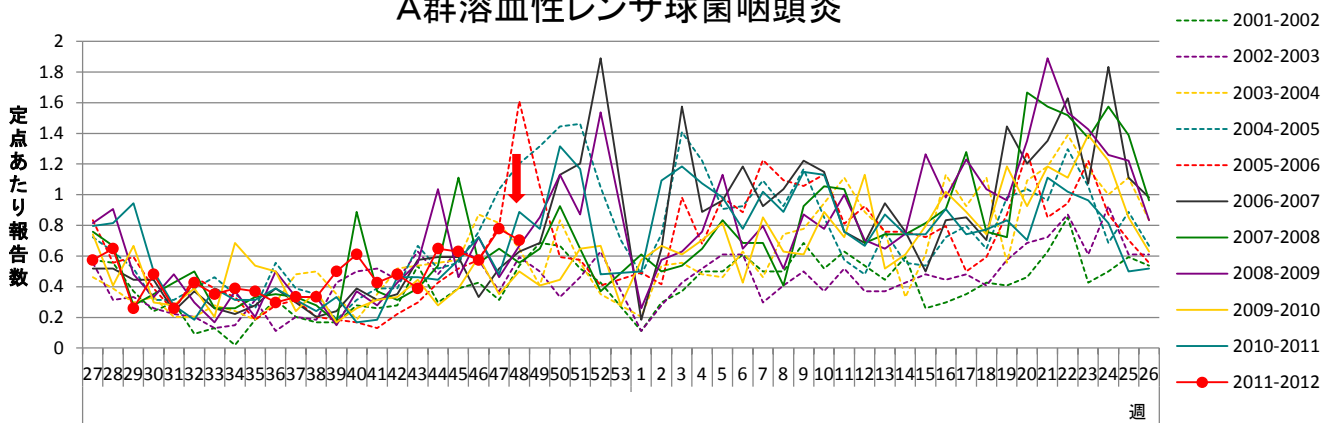
RSウイルス感染症



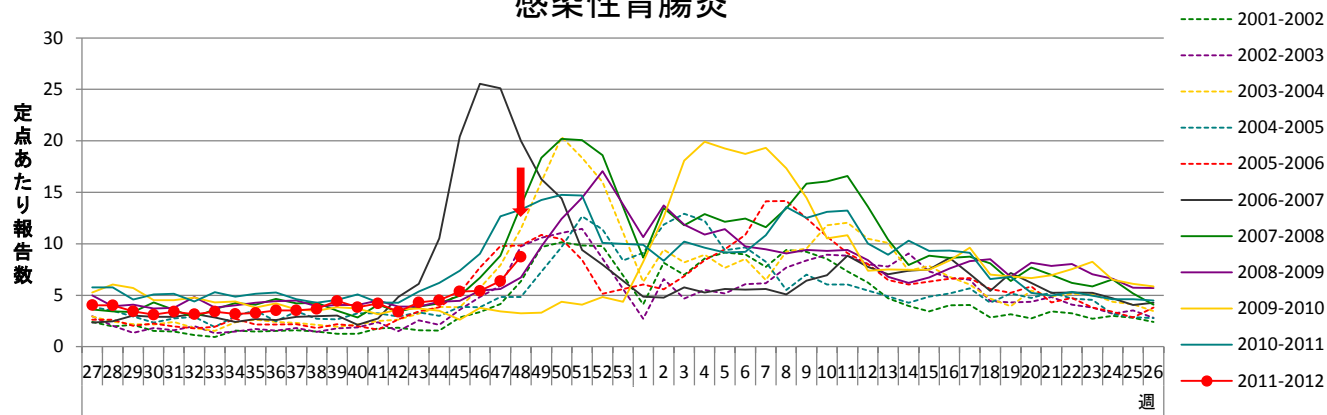
咽頭結膜熱



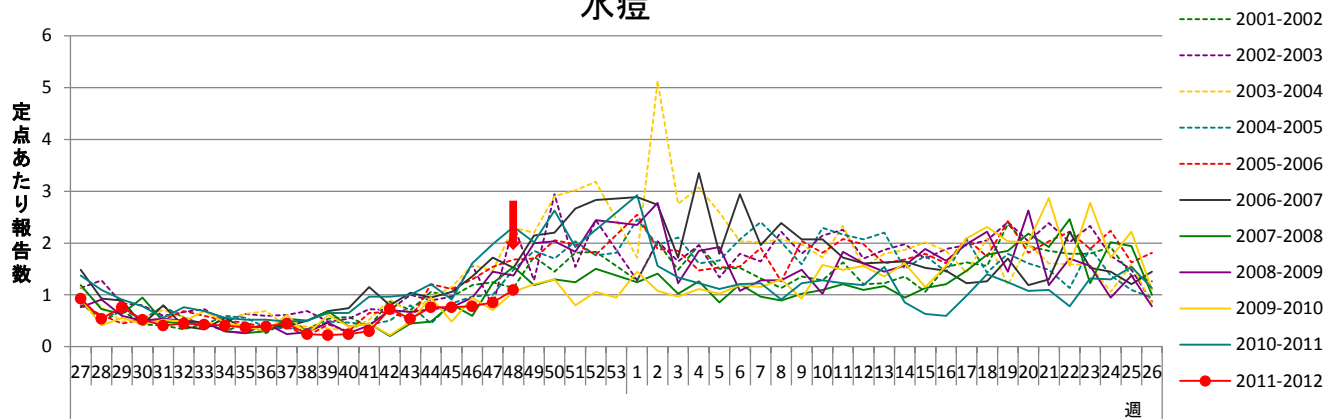
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



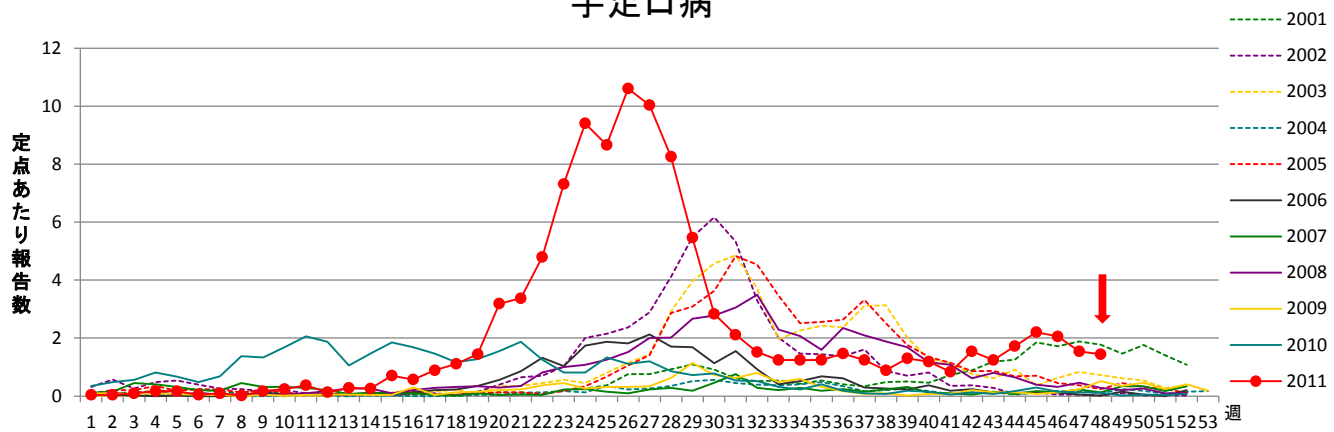
感染性胃腸炎



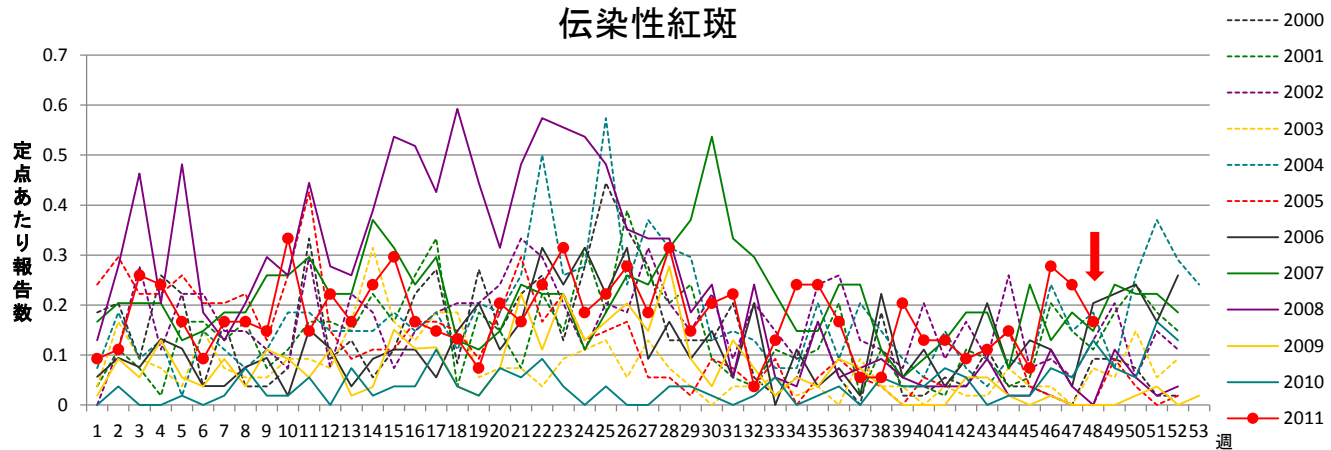
水痘



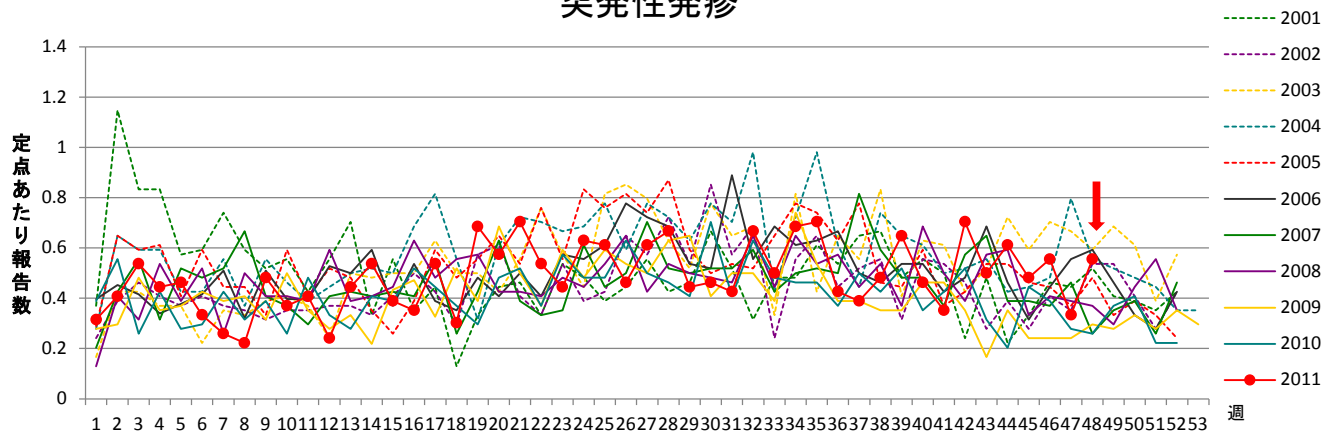
手足口病



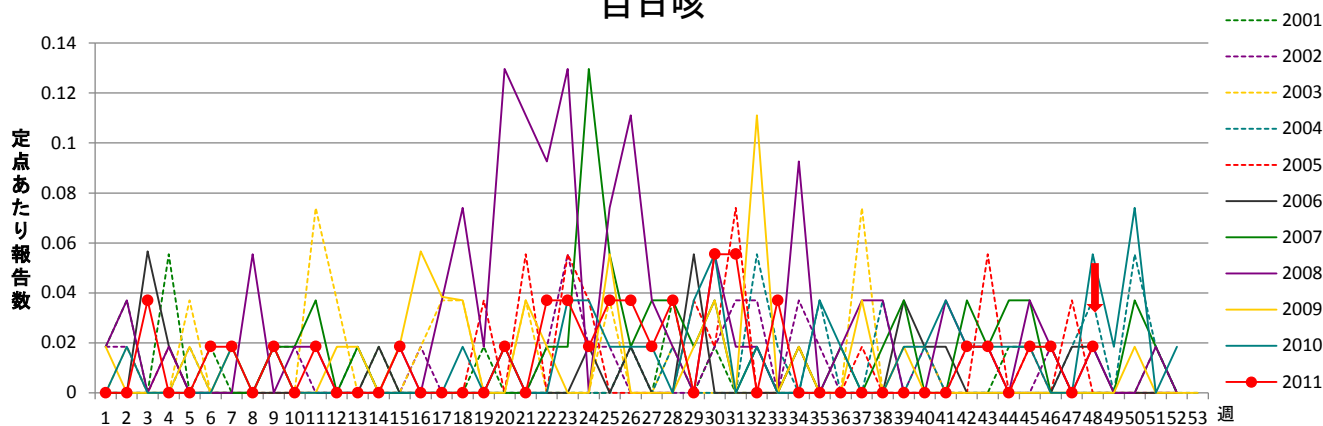
伝染性紅斑



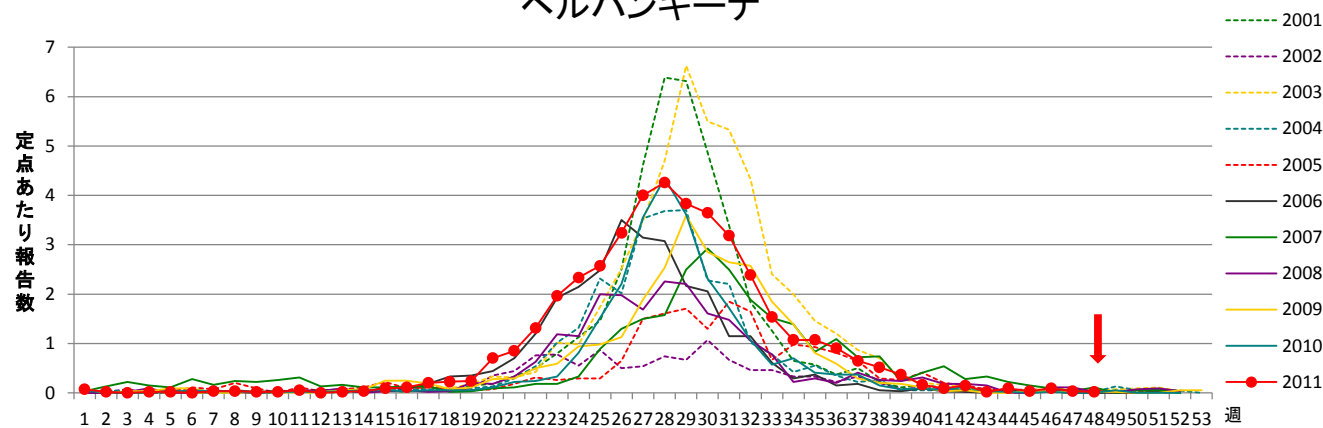
突発性発疹



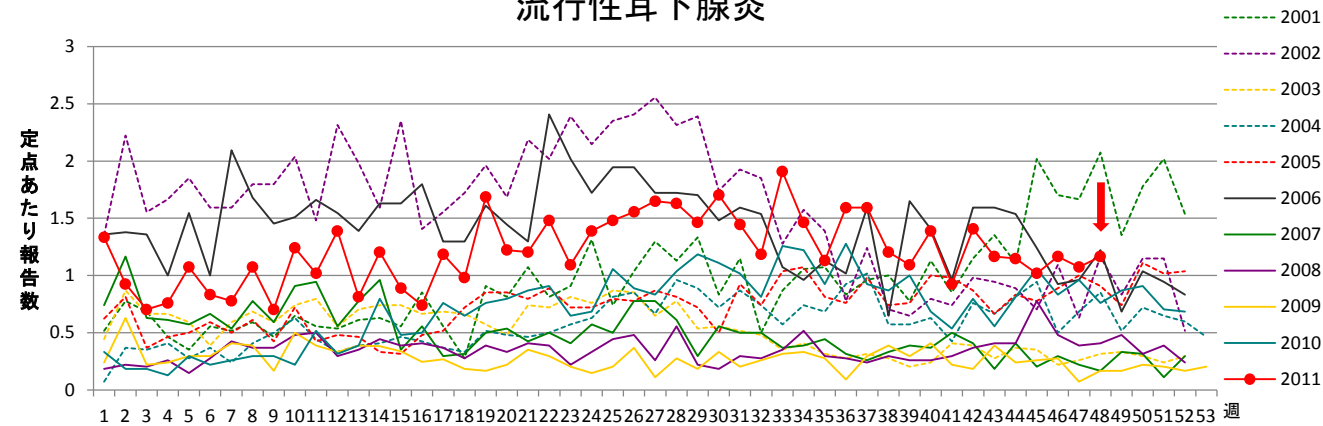
百日咳



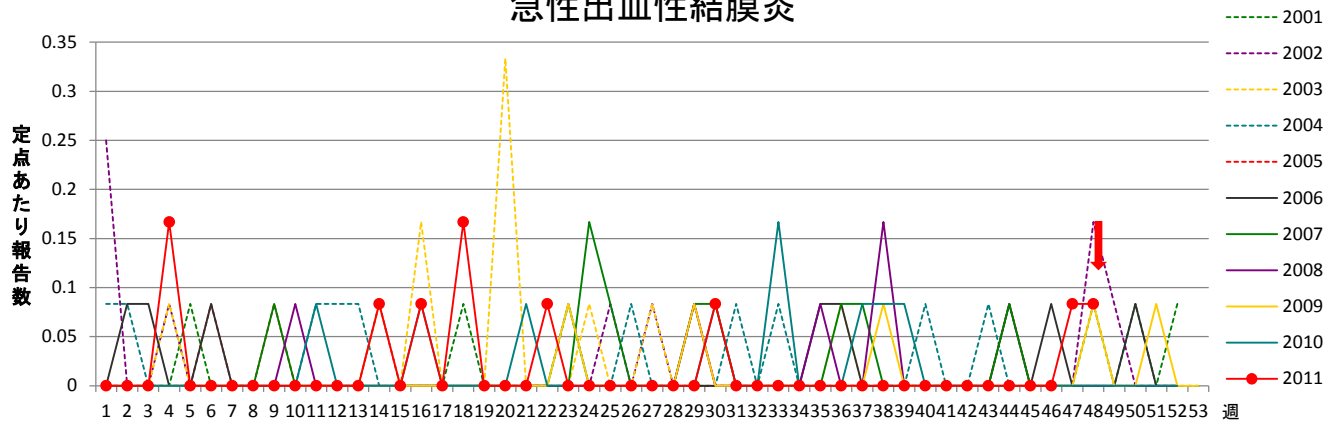
ヘルパンギーナ



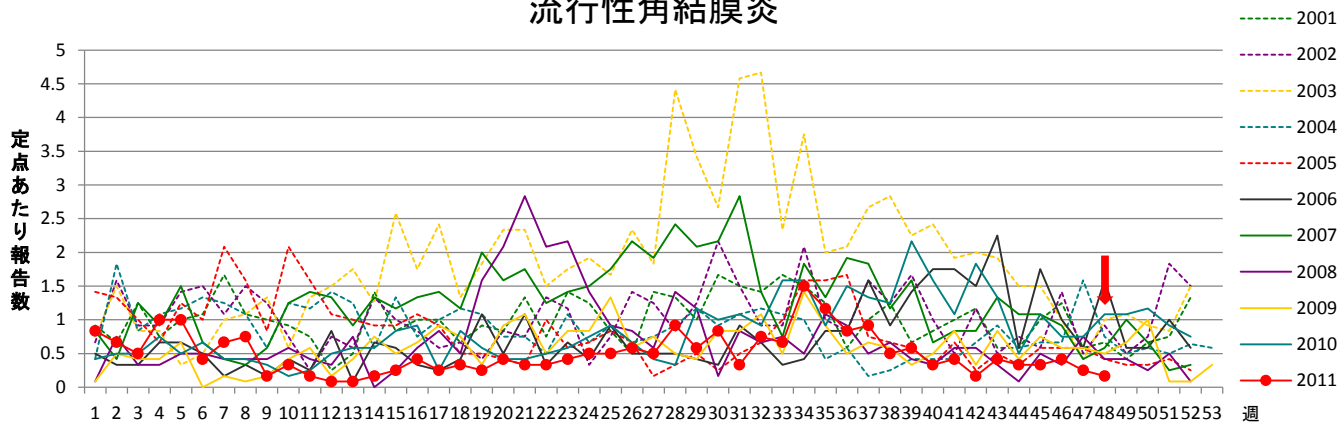
流行性耳下腺炎



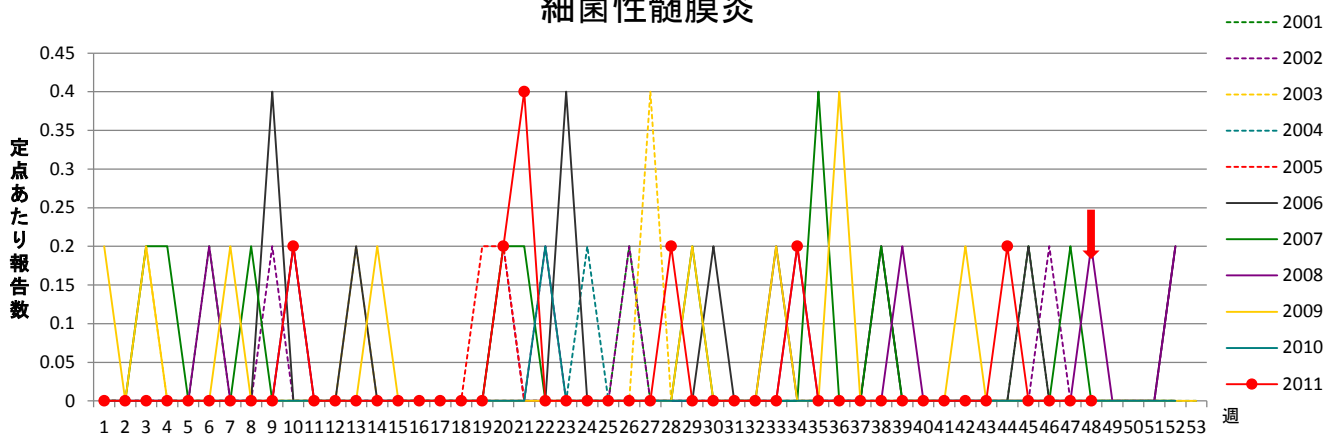
急性出血性結膜炎



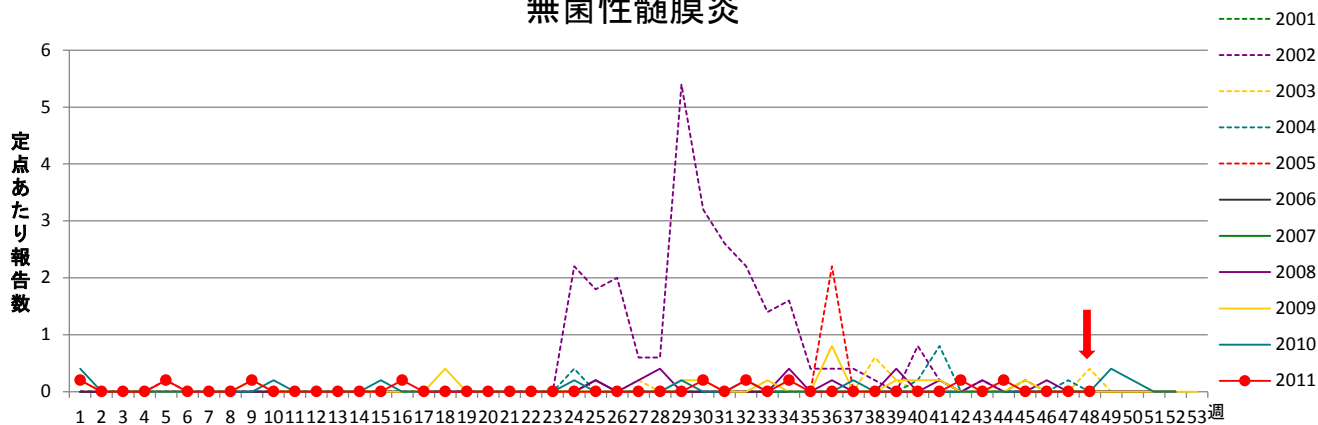
流行性角結膜炎



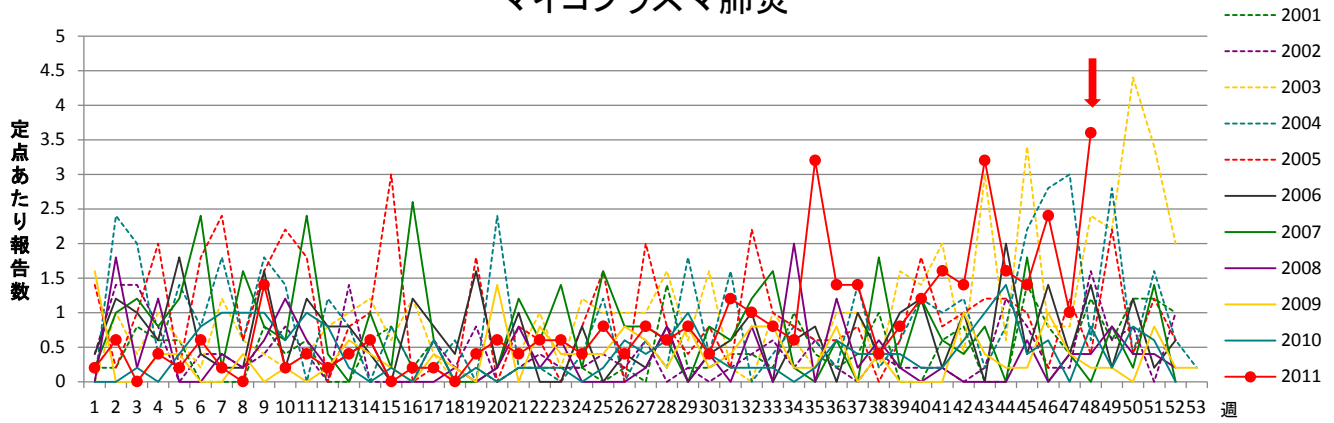
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

